

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立外町小学校			C : やや不十分である D : 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・自らの夢や目標に向け努力する児童の育成を推進するために、地域の人材を高め活用し、学年に応じたキャリア教育を計画し、志と地域を誇りに思ふ心を高める教育の充実を図る。 ・保護者アンケートの結果より、今年度は、特に「温かい雰囲気」の学級づくり「やさしい言葉遣い」「夢や目標に向けて努力する」に重点を置いて取り組む。 ・校内研究のより一層の充実を図る。一人一台タブレット端末の活用を置き、グループワークやクラスワークの場面での話し合いのもち方とタブレット端末の活用法に焦点を当てて校内研究を深める。 ・児童が安心・安全に学校生活を送ることができるように安全教育・防災教育の充実を図る。火災避難訓練と不審者対応避難訓練、地域防災訓練等を、家庭・地域と連携して計画的に実施する。 ・若手教員が年々増えてきているので、初任者指導教員や初任研コーディネーター、初任者メンター、中堅教員等に働きかけ、若手教員向けの研修とメンターミーティングの充実を図る。			
2 学校教育目標	「やさしい」「かしこい」「たくましい」外町っ子の育成 ～ 子どもが笑顔で登校、満足で下校する学校 ～			
3 本年度の重点目標	①「やさしい子」→思いやりの心をもち、友達と共に高め合う子の育成 ②「かしこい子」→目標をもち、学ぶ楽しさを味わう子の育成 ③「たくましい子」→健康な心と体をもち、粘り強く取り組む子の育成 ○児童一人ひとりの人権尊重を基本とし、これからの社会の変化に主体的に対応できる、知・徳・体の調和がとれた、人間性豊かな児童の育成 ○成就感や自己肯定感を高める教育の推進			

重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師80%以上 ○図書室の貸出目標冊数を達成した児童85%以上	・学力向上対策シートを用いた研修を行う。 ・全国及び県の学習状況調査の結果の共有・改善のための職員研修を行う。 ・朝読タイムなど、児童が本に触れる時間を意図的に設定する。 ・年間を通して、「自己肯定感の高まりから自他への思いやり」につながるハートフルタイムを年3回設定する。 ・道徳に関するアンケートや、生活はっぴーアンケートを実施し、実態把握を行う。	B	・年度当初に今年度計画していた取り組みが実際に行うことができた。思考的な問題や条件に合わせて論理的に自分の考えを説明できるように1人1台端末等を活用しながら取り組むことができた。 ・朝読タイムや読み聞かせなど、児童が本に触れる機会や時間を増やすように取り組んでできた。しかし貸出目標冊数の85%以上は今年度達成できなかった。	A	・本離れが言われる社会の中で、学校図書室の担う役割は大きいと考える。これからも児童が本に触れる機会をつつて欲しい。	学力向上コーディネーター 学習部	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生活はっぴーアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答した教員95%以上。	・年間を通して、「自己肯定感の高まりから自他への思いやり」につながるハートフルタイムを年3回設定する。 ・道徳に関するアンケートや、生活はっぴーアンケートを実施し、実態把握を行う。 ・毎月1回、いじめの早期発見につながるアンケートを実施する。 ・毎週1回、児童の情報共有の時間を設定する。	A	・学期1回のハートフルタイムを実施した。今年度は、自分と他者との関わりを意識したテーマで行い、最終回は「感謝」をテーマに全校各クラスで考えることができた。 ・生活はっぴーアンケートでは、回を追うごとに肯定的な回答をした児童が増え、80%を超えた。	A	・一つ一つの活動の積み重ねを、児童の心の成長につながっており、効果を感じる。これからも継続した取り組みをお願いしたい。	道德教育推進教員 人権・同和教育担当
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答した教員95%以上。	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答した教員95%以上。	A	・いじめに関するアンケートだけでなく、生活はっぴーアンケートでも気になる点や情報があれば、全教職員で共有し、対応している。 ・組織的な対応ができていたと答えた教職員は100%である。	A	・防止対策と共に、早期発見の取組や、今まで起こった事例の分析なども行い、いじめ防止に取り組んでほしい。	教育相談	
	●○児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上。 ○「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上。 ○「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	B	・授業や学校行事等を通して、児童が夢や目標について自ら考える時間を設ける。 ・児童を称賛する場面を多く設定し、自尊感情を育てる。 ・計画的に、学年に応じたキャリア教育を実施する。 ・キャリアパスポートの活用を継続し、将来の夢や目標を考えさせる。	B	・学校行事や児童集会など、自分の目標をしっかりと意識し、児童主体で活動すること、頑張りをほめること、自信や達成感を感じさせることができた。また、次の活動の意欲になり、将来の夢や目標の実現に向けて意欲を高めることにつながった。 ・キャリアパスポートを活用して自らの夢や目標の実現に向けた取り組みの意識向上を図った。また、5、6年ではPTAを中心に「外町おしごとフェス」を開き、将来について具体的に考える機会を設けた。	A	・学校行事や集会など、保護者や地域が参加できるようになって数年たち、参観できる機会も増えたことは嬉しい限りである。 ・キャリア教育を含め、地域の人材を児童の学習のために、どんどん活用して欲しい。
●健康・体づくり	○児童が毎日笑顔で登校、満足で下校する学校づくり。	○「学校は楽しい」に肯定的な回答をした児童80%以上。	・職員全体で全児童を見る体制づくり。 ・児童の「楽しい」を掲示などで具現化する。	A	・月1回の「子どもタイム」で職員間の情報共有を行うとともに、担任だけでなく、学年グループなどのチームとして児童に対応してきた。 ・学校アンケートでは、98%の児童が「学校が楽しい」と答えている。	A	・朝登校してくる児童が、2学期以降は表情もよくなってきた。	管理職	
	●次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒75%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒75%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	B	①年間を通して、準備している長縄やボールを利用し、外遊びをする児童が多かった。今年度は、「さがんキッズスポーツチャレンジ」には全学年が参加した。 ②3・5年生の味噌づくり体験や、作った味噌を用いた調理実習を各学年で実施した。給食委員会でも食材に関する新聞を作成し、児童が食育に触れやすい環境づくりを目指した。 ③今後も、登校指導や風水害避難訓練、交通パレードなど、学校・保護者と共に、外町ボランティアをはじめとして地域も連携して取り組んでいきたい。	B	・外町小学校の児童は、外遊びをしている児童が多い。それに対して、週末や長期の休みでも地域であまり児童が遊んでいる姿を見ることがない。せめて、学校にいる間は外で健康的に遊ぶことができる環境を作っていって欲しい。 ・安全教育に関しては、地域でも積極的に子どもに関わってほしい。	①②保健体育部 ③生活指導部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○予期せぬ自然災害から、命を守る行動がとることができる児童の育成。	○非常時に「命を守るためにどうすればいいか分かる」と答える児童80%以上	・計画的な避難訓練、防災教育を行い、職員と児童が共通認識の上で危機意識を高める。	B	・年間を通した計画的な訓練を経験することにより、児童の放送の聞き方や予告なしの訓練で考えた行動が身に付いてきたと感じられるようになった。	B	・毎年の学習の積み重ねが大切であると感じている。地域社会としても、児童の安全のために積極的に関わってほしい。	生活指導部 管理職	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・運動時刻の設定をする。 ※月～木2、5時間(9・10 金1、5時間(18・10) 必要な会議、連絡会の精選や、計画的・効率的な運営・ペーパーレス化を推進する。	B	・運動時刻の設定により、在校時間の減少につながっている。ただし、個人差は大きい。また、より一層、設定の遵守に努める。 ・会議・連絡会を予定時刻より大分前に終わらせ、事務処理の時間を確保するように努めた。来年度も継続したい。	B	・先生方の勤務時間と共に、心身の健康についても気にかけている。外町ボランティアを始め、働き方改革につながるよう地域でも助けたい。	管理職	
●特別支援教育の充実	○業務改善への意識向上	○1年間で業務改善の取り組みを3回以上行う。	・業務改善やラフワーク・バランスに関する研修を行い、意識向上につなげる。 ・年休を取得しやすい雰囲気づくり。	B	・年間を通した研修や声かけを通して、主に、教職員の意識の改革に主に取り組んだ。 ・年休の取りやすい雰囲気はつくることができた。 ・若手職員の在校時間が長い傾向があるため、改善していく必要がある。	B	・先生方がより生き生きとした姿を見えることで、将来教員になりたいという児童も出てくる。そのために先生方の業務改善は積極的に進めてほしい。	管理職	
	○教員の特別支援教育への意識の向上と支援のあり方の理解。	○特別な支援が必要な児童への支援の在り方に関するアンケートで、肯定的な回答の教員95%以上。	・特別支援教育に関する研修会を年に6回実施する。 ・校内教育支援委員会を通して、情報共有を行う。	A	・全体での研修は、年間1回実施した。子どもタイムの際には児童支援のあり方についてのフックポイント資料を提案した。また、ケース会議を継続的に開くことで具体的な支援について関係者で協議することができた。 ・定期的な会をもち、支援を必要としている児童の引き継ぎがスムーズに行くように個別の指導計画の作成を進めることができた。	A	・しっかりと対応してもらっているという話をよく聞けたため、安心している。	特別支援C	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○情報教育の充実	○一人一台端末の日常的活用に向けた公開授業や研修の充実 ○職員間の活用率の差の低減	○年間5回以上の一人一台端末を活用した授業公開 ○年間5回以上の校内における情報教育研修の実施	・校内研究として全教員の活用推進 ・実践例の共有、アプリケーション等の有効な使い方のに関するOJTの実施	A	・全校での継続的な取り組みや研究発表を通して、授業におけるICT活用率向上が見られた。 ・授業の内外を問わず、一人一台端末を活用しようとする児童の姿が増えた。	A	・参観時に児童の様子を見たが、低学年の児童も時に問題なく一人一台端末を使っている姿に驚かされた。	ICT担当	
○郷土を誇りに思う教育の実践	○外町小学校区・唐津を好きになる教育活動の充実	○「外町小学校区が好き」「唐津が好き」に肯定的な回答をした児童90%	・外町ボランティアを中心とした、地域の人材を積極的に活用し、地域の方々や文化に触れる機会を多く設ける。	A	・校区内の方を中心としたキャリア教育「外町おしごとフェス」を実施した。自分の将来について考えるとともに、校区内に誇りをもつ良い機会となった。「唐津・外町校区が好き」な児童は、共に93%を超えている。	A	・外町小学校は、保護者も外町小学校の卒業生という家庭が多い。家庭や地域とは連携が取りやすい環境であり、いろいろな取組を行っていいから、と考えている。	管理職	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望									
・自己肯定感を高め、学校行事に主体的に取り組む、自らの夢や目標に向け努力する児童の育成を推進する。来年度も学年に応じたキャリア教育を行い、キャリア教育と志を高める教育の充実を図る。 ・地域の人材、施設との交流を積極的に推進し、外町小学校区が大好きな児童の育成を図る。 ・保護者のアンケートの結果より、学校では、特に「やさしい言葉遣い」「進んで読書」「食育」に重点を置いて取り組み、地域・家庭と連携して「家庭での読書」「家族や地域でのあいさつ」を推進する。 ・校内研究のより一層の充実を図る。一人一台端末の活用を重点として「進んで読書」「協働的な学び」における、選択制の一活用を当年度に焦点を当てて校内研究を深める。 ・児童が安心・安全に学校生活を送ることができるよう安全教育・防災教育の充実を図る。火災避難訓練や不審者対応避難訓練、地域防災訓練等、家庭・地域と連携して計画的に実施する。 ・若手教員が年々増えてきているので、引き続き、新任者指導員や初任コーディネーター、新任者メンター、中堅教員等に働きかけ、若手教員向けの研修とメンター・ディメンタリングの充実を図る。									